

大正小学校の総合学習「大正っ子タイム」

学年	テ ー マ
1	ともだち かぞく みんな大すき
2	大すきだよ わたしたちの大正
3	くらし 発見 わたしたちの大正
4	つながろう、みんながすみよい 大正校区に
5	人権を守る取り組みに学ぼう
6	自分自身の生き方を考えよう



学校現場から

大正小学校の人権総合学習の取り組み

四月に学習がスタートし、修学旅行で、太鼓の演奏活動を通してあらゆる差別をなくす活動をしている「怒」の人たちに出会い、活動へのひたむきな姿・熱意に触れ、心をうたれました。

次に、総合学習を終えた六年生のある児童の作文を紹介します。

「大正っ子タイムの学習をして」

この出会いをきっかけとして、市内の人権団体や地区公民館など身近なところで差別をなくす活動をしている人たちに聞き取りを行い、差別をなくしていく活動のすばらしさや差別の不合理さを学びました。

「大正っ子タイム」の時間に、さまざまな差別について学習をしました。部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくすための地区進出学習会にも二学期の間だけでしたが参加して、部落差別をなくすための学習をすることができました。

また、隣保館での親子学習では、親子で思いを出し合い、「差別を許さない、なくしていこう」とする気持ちを確かめ合うことができました。こうした学習を通して、子どもたちは、家統からの自分に対する思いや願いを知り、今生きていることを喜び合い、自分の生き方を考えることができる貴重な学習の場になったと思います。

被差別体験を持つYさんに来ていただいて、話を聞いた時、M君が「これまで学習会に参加してこなかった自分たちこそが本当は勉強しなければならぬと思います」と意見を発表しました。

私はそのことがすごく心に残っています。なぜなら、学習会に参加している人だけが差別に関する勉強をしているのも世の中から差別はなくならないと思うからです。みんな

でも、この学習をしているうちに自信を持つて言えるようになりました。十二月の親子同和問題学習の時に、人に伝えることができました。どの友達も、ちゃんと受け止めてくれると思うようになったからです。

家族との語らいの時、母が「いくつになっても学習を続けなければいけない。そうしないとみんなが幸せにはなれないと思うよ」と言いました。私も、これまで以上にたくさん学習をしていきたいと思っています。

部落差別をはじめとするあらゆる差別には、さまざまな理由をつけて、他人の権利を侵害するといった共通性があります。一つの差別を許すことは、すべての差別を許すことにつながります。

学校や学級の中に差別の芽がないかを常にふりかえりながら、学んだことを生活に生かすという視点を大切に、「どんな差別も許さず、みんなが楽しく生活できるような社会を作る」というねらいで同和教育を今後も進めていきます。

問い合わせ先 人権・同和教育課（☎20-33376）



太鼓グループ「怒」のメンバーとの交流